

山岳の空間構成及び利用形態の分析

An analysis on spatial structure and use of mountains in Japan

島 健二¹⁾ 北村真一²⁾ 加藤昭男³⁾

By Kenji shima, Shinichi Kitamura, Akio Kato

The objective of this paper is to know spatial structure and use of mountains in Japan. This paper deals with Sintai-San mountain that people have been having faith from long ago. The mountains are classified into three groups by the difference of their landscape and shape and religious style. Kannabiyama mountain is mostly used for religious. Syugendo mountain is used for religious and sightseeing. Asama mountain is used for leisure and resort.

1. はじめに

日本は、山国である。山岳地帯は国土の80%を占めており、ほとんど全国の地域で山を眺めることができる。その大きさ、形態は、小は各地の里山から大は最高峰富士山に至るまで様々である。そして、日本人ほど山を尊び、山に親しんだ国民は世界に類がないと言われている。

それでは、山とは日本人にとって、一体どのような存在であるのだろうか。山の日本人に対する役割を整理すると、次の5つに代表されると考えられる。

(1) 精神的支え…古くから山は神聖な空間であり、

修行の場として信仰されてきた。

(2) 民族、文化、郷土のシンボル…文学、芸術の対象として和歌に詠み込まれたり、絵画の中に描かれた。また、学校の校歌に多く詠み込まれ、その地域のシンボルとして人々に心理的に与える影響は大きい。

(3) 資源のある場所…山菜、茸、水などの食料資源や炭、岩、骨材などの鉱物資源、また森林資源の源である。

(4) 治山…崩壊防止の働きがある。

(5) 観光、レジャーの空間…山は自然に富んでおり、ハイキングや森林浴などのレジャー、レクリエーションの場として利用されている。

このように、様々な形で我々の生活に関わっている。そして、今日、山は開発が進みその景観、性質を大きく変貌させようとしている。そこで、今後の開発のあり方、利用のあり方について考えることを最終的な目的とし、本研究では、山の現状を正確

-
- 1) 学生員 山梨大学大学院修士課程 環境整備工学専攻 〒400 山梨県甲府市武田4-3-11
 - 2) 正会員 工博 山梨大学助教授 工学部環境整備工学科 〒400 山梨県甲府市武田4-3-11
 - 3) 非会員 豊田市役所

に把握するために、日本人と深く関わってきた神体山を研究の対象として、山岳の立地条件、空間構成及び、利用形態の関連性を明らかにする。

2. 研究の方法

(1) 神体山の分類

本研究では、古来より日本人と精神的に深くつながりを持ってきた神体山を研究対象とする。その山岳を大場磐雄氏「祭司遺跡」の分類により、山の形と信仰形態等の視点から神奈備型と高山大嶽型の2つのタイプに分けた。

神奈備型は、「平野の近くに立っている小山」であり、神の降臨する神体山と考えられ人々が近づくことのできない禁忌の領域であった。そのため山に入ることは禁じられており信仰の形態としては、山に登らず山麓あるいは平野部より山を望み、崇拝する形で山辺の集落によって信仰されていた。高山大嶽型は、神奈備型同様に禁忌の領域であり畏怖の対象であった。山中に入り山頂を極めて山の精気にうたれ、それによって心身の修行を積む修験の行者により登拝され後には講によって全国的な信仰圏を持った高くそびえている山である。

さらに、高山大嶽を山容、現在の利用等の特徴により修験霊型と浅間型とに分類し神奈備型、修験霊型浅間型の3つのタイプに分けて分析を行なった。

(図-1 参照)

(2) 対象山岳の抽出

対象山岳の抽出は、既存研究における分類及び文献等を参考に行い、神奈備型23例、修験霊型15例、浅間型22例 計60山岳を抽出した。

(3) 分析の方法

国土地理院発行の1:25,000及び1:50,000の地形図、文献、写真集等によりサイトプラン構成を略図化し、空間構成 利用状況についてまとめたデータシートを研究対象とした60山岳全てについて制作した。そしてこのデータシート及び地形図、写真集をもとに各タイプ別(神奈備型、修験霊型、浅間型)に地形、山容、空間構成、及び利用形態の4項目について分析を行う。

空間構成の分析においては構成要素として神社、集落(視点)、山、平地部、湖等に着目し構成要素

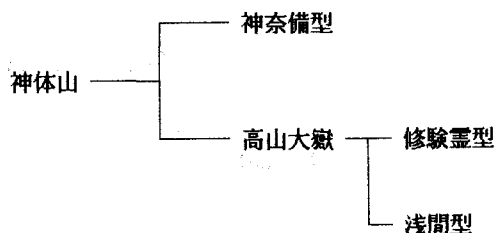


図-1 神体山の分類

間の位置的関係や集落(視点)から山をどのように見ているか(サイトプラン構成)について分析し、山岳及び山岳を取りまく環境の特徴を明らかにする。

利用形態の分析では、先に山の役割を整理したように様々な形で利用されているが本研究においてはレジャー、リゾート、観光の対象となっている施設土地利用を中心に分析を行う。

3. 地形と空間構成の分析

(1) 神奈備型の地形と空間構成

地形: 23例について分析を行った結果、次の4つのタイプに整理された。①山塊の端に位置する山②いくつかある尾根のうちの1つになっている山③谷の奥にある山④平野部にある独立峰。いずれも平地に面しており、平地から山を望むと独立峰のように、はっきり他の山と区別できる地形である。(図-2、表-1 参照)

山容: 写真-1は三上山である。このように山頂はピークがはっきりしており、左右対象の山が多い。峰の連続した山でも視点の方向によって独立峰の山のように見える。(写真-1 参照)

空間構成: 山麓に神社が立地している山が多い。これは、神奈備型の山が信仰形態上の特徴として山には入らず山麓から崇拝してきたためであると考えられる。しかし地理的制約により山麓に神社の立地が困難な場合は、山腹に立地している。そして山麓に広がる平地には、集落が立地している。視点となる集落と山との距離は、非常に接近している。サイトプラン構成は、(山を神として祭っている)集落 → (山を祭った)神社 → (神として祭られている)山 という構成となっている。(図-3 参照)

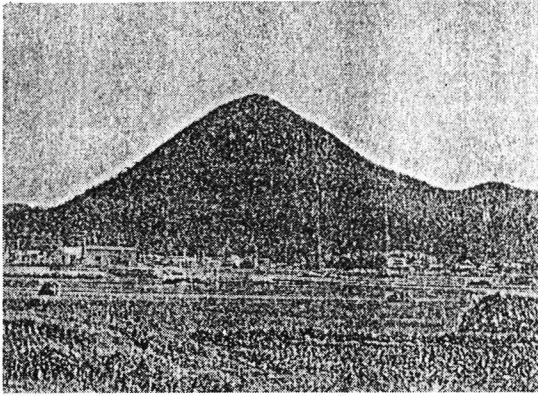


写真-1 三上山

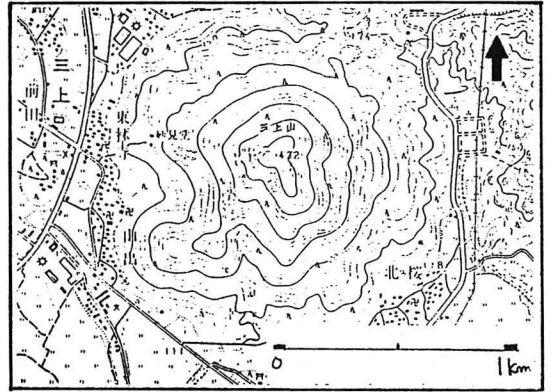


図-2 三上山の地形図

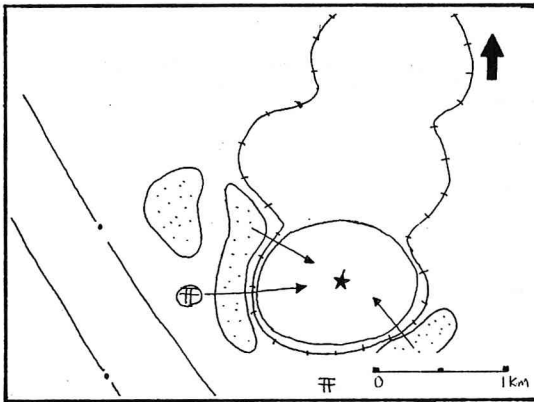


図-3 三上山の空間構成図

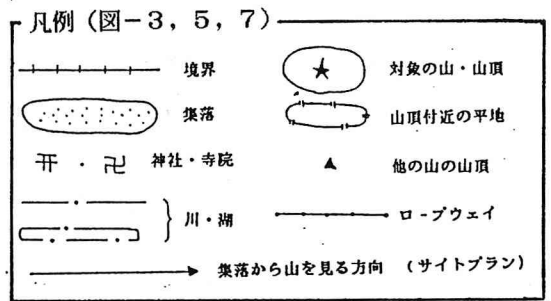
(2) 修験霊型の地形と空間構成

地形：15例について分析した結果、次の4タイプに整理された。①山塊の中にある山、②連峰とになっている山、③山塊の端にある山、④谷の奥にある山。①のタイプのように山が深く、周囲を山々に囲まれている場合が多い。平野部から離れており、集落（視点）からも遠く、複雑な地形を成している。

（図-4、表-1参照）

山容：周囲を他の山々に囲まれているため、対象山岳の山頂、稜線をはっきりと他の山と区別できる山は少なく、いくつもの峰を成している（連峰型）。（写真-2参照）

空間構成：山頂付近に平地部があり、そこに神社、寺院が立地している場合が多い。これは、この地が修行の場として、周囲の環境から遮断された独自の空間を形成し、清浄な空間として利用されうる場所を選び、利用してきたことによると考えられる。視



点となる集落が山から遠くはなれている場合が多く、複雑な地形のために他の山によって対象山岳が視界から遮られ、全容を確認するのは困難である。サイトプラン構成は、集落→他の山→対象の山（一部分）という構成となっている。（図-3参照）

(3) 浅間型の地形と空間構成

地形：22例について分析した結果、次の3タイプに整理された。①連峰になっている山、②山塊の中にある山、③山塊の端にある山。周囲の山の標高が比較的低いため独立峰である山が多い。そのため人々の目にふれやすく、足を踏みいれやすい地形である。（図-6、表-1参照）

山容：神奈備型や修験霊型に比べて様々な山容があり、次の4タイプに整理された。①山頂、稜線が明瞭な単峰型で、稜線はなめらかな曲線であり左右対象である、②山頂が明瞭な単峰型で横に長く広がっている、③山頂が幾つにも分かれている（連峰となっている山）、④幾つもの山が連なっている（単峰の山が並んでいる）。①のタイプの山は、神奈備型の山容に似ており他にも修験霊型と似ている山も多い。また、浅間型は比較的单峰型の山が多く、連

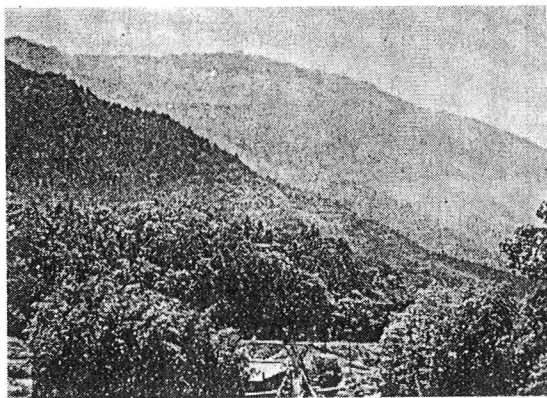


写真-2 比叡山

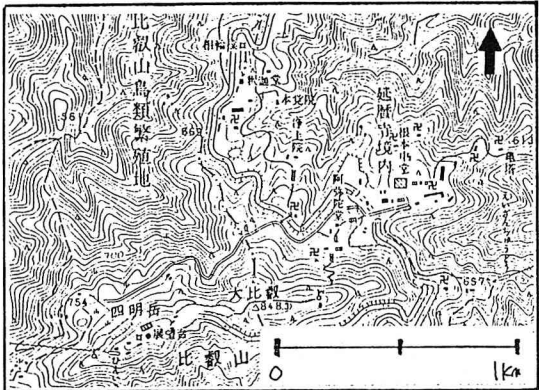


図-4 比叡山の地形図

表-1 タイプ別地形分布

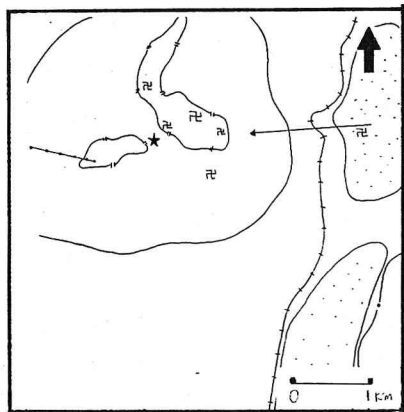


図-5 比叡山の空間構成図

	神奈備型 (23例)	修験霊型 (15例)	浅間型 (22例)
山塊の端に位置する山	10 (43)	1 (7)	1 (5)
いくつかある尾根のうちの1つになっている山	7 (30)		
谷の奥にある山	2 (9)	1 (7)	
平野部にある独立峰	4 (17)		
山塊の中にある山		8 (53)	4 (18)
連峰となっている山		5 (33)	17 (77)

() 内はパーセント

表-2 タイプ別利用分布

	神奈備型 (23例)	修験霊型 (15例)	浅間型 (22例)
有料道路		9 (60)	11 (50)
0-7914		6 (40)	5 (23)
スキー場		3 (20)	8 (36)
保養地		2 (13)	
温泉地			9 (41)
牧 場			7 (32)
ゴルフ場			4 (18)
キャンプ場			2 (9)
国民休暇村			2 (9)

() 内はパーセント

峰を成していても山頂付近の山容がはっきりしており、対象山岳を全体的に捉えることができる。(写真-3参照)

空間構成：地形的、山容の特徴が、神奈備型、修験霊型とよく似ている山は空間構成においても類似点が多い。すなわち山麓に集落（視点）がある独立峰の山は、集落→神社→山 というサイトプラン構成を成し、神奈備型タイプである。また、連峰型で視点が離れている場合は、集落→他の山→対象の山 という構成を成し、修験霊型タイプとなる。しかし、浅間型は、標高が高く視点（集落）の領域も広範囲にわたっている。神社は神奈備型では山麓のみに立地するのがほとんどであったが、浅間型は山頂にも神社があり山麓の神社の奥の宮となっている。また、空間の構成要素として湖が山頂付近や山

麓に多い。これは、山の噴火などの火山活動による火山湖、堰止湖などで浅間型が火山であることによる。(図-7参照)



図-6 男体山の地形図



写真-3 男体山

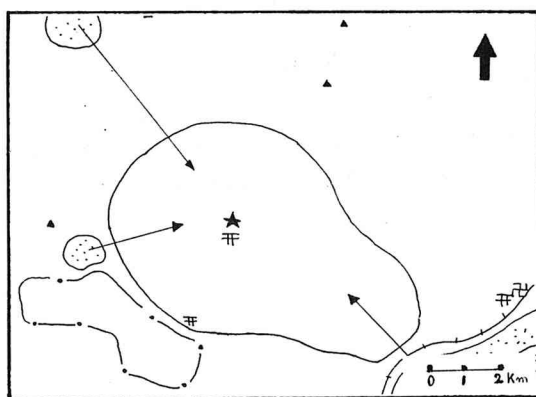


図-7 男体山の空間構成図

4. 利用形態の分析

(1) 神奈備型の利用

23例中全ての山について、レジャー、リゾート、観光を対象とした利用は成されていない。山麓が果樹園や住宅地に利用されている場合があるが、ほとんど保存されている。(表-2参照)

(2) 修験霊型の利用

有料道路やロープウェイが通じている場合が多い。これは、修験霊型の山が空間構成等で明らかになったように山頂付近の平地に神社、寺院が立地しており、道路やロープウェイ等の交通機関により足を運び易くなり、心理的に近いものとなっている。これにより神社、寺院などが観光地としての性格を持つ

ような利用が成されている。しかし反面、スキー場、保養地といったレジャー、リゾート等の利用は少ない。(表-2参照)

(3) 浅間型の利用

観光道路の整備も進んでおり、スキー場、温泉地、ゴルフ場等の利用も多い。また浅間型の山には湖も多く自然景観にも優れており、観光資源に富んでいる。そのため山自体が観光地としての性質を持ち、レジャー、リゾート、観光を中心とした利用が成されている。(表-2参照)

5. まとめと今後の発展

本研究では、神体山を3タイプ(神奈備型、修験霊型、浅間型)に分類し、各々について地形、山容、空間構成、利用形態の特徴を明らかにした。現在、山岳における宗教的要素は次第に薄れ、レジャー、リゾート、観光を目的とした利用が多くなっている。そのため、山岳あるいはその周辺において開発が進み、数々の問題(自然破壊など)を引き起こしている。今後、リゾート法によるリゾート整備や観光地の活性化のため、益々開発が進み保全対策などが必要であると思われる。そこで、開発と保護という対立している概念をバランスよく共存させるような開発のあり方を考える必要がある。

なを本研究は文部省科学研究費補助金総合研究
(A)「名山・聖山の空間構成に関する研究」(昭和62年度)による。

参考文献

- 1) 樋口忠彦: 景観の構造, 技報堂, 1975.
- 2) 樋口忠彦: 日本の景観-ふるさとの原型-, 春秋社, 1981.
- 3) 池上広正: 山岳信仰の諸形態, 名著出版, 1975.
- 4) 久保田展広: 山岳霊場巡礼, 新潮社, 1985.
- 5) 大場磐雄: 祭司遺跡, 角川書店, 1970.
- 6) 桜井徳太郎: 歴史の山100選, 秋田書店,

1974.

- 7) 渡辺まなぶ、他: 日本の山1~47天地の旅, 図書刊行社, 1976.
- 8) 佐佐木綱、他: 第54回関西地区大学合同セミナー記念 風土分析と地域計画, 地域・交通計画研究所, 1985.